

これを受けて横浜市は「防災対策」の全面書き換えにかかっていますが、「市民の声を確り生かしたものにしたい」と来春まで意見を募集、2013年秋発表の予定だそうです。

▶図の左手、水に洗われていない部分がみなとみらい中央地区（真ん中のイチョウの葉型がミッドスクエア）です。県、市の測定ではMM地区は例外的に被害発生はなく、1、2、5、6丁目（図の南側・さくら通り下、東側・臨港パーク園地と内貿バース、北側・高島水際線）

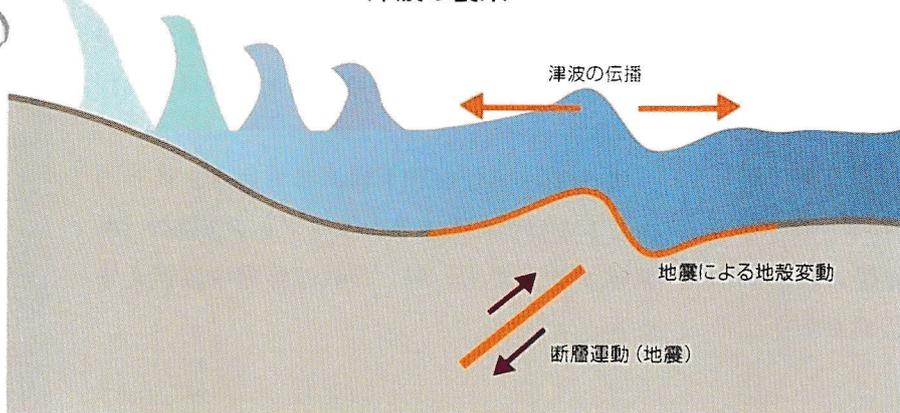
の一部を浸すぐらいだそうです。

しかし他は赤レンガ倉庫も大棧橋のアプローチも、沿岸部の広大な範囲で1～3mの浸水。中でも横浜駅東口一帯などは5～9mの水が襲い、地下街やみなとみらい線、地下鉄線などは完全に水没する惨状です。下水道も当然マヒしてしまいます。

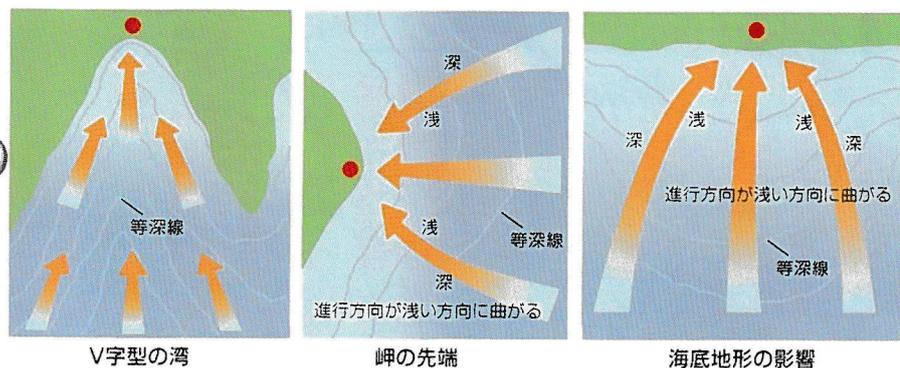
▶不思議なのは海拔との関係。ミッドスクエア周辺は最近設けられた「海拔表示」（全市内の海岸部に約7400枚設置）によるとおおむね「3m地帯」です。ところが図の上では4.1mの津波にも打ち勝つ格好になっています。

「津波高も海拔も平均海面を基準にするので、見かけは確かに1mの誤差があります。が、津波は護岸の整備状態や環境によって弱まる性格があるため、それらを含んで算出するとこうした結果になるのです」（横浜市消防局危機管理室）という話でした。

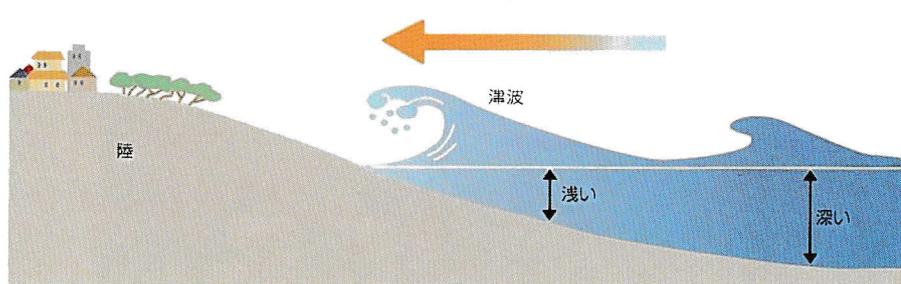
津波の襲来



津波の伝わり方



浅くなると背が伸びる



Memo 津波は繰り返して来る。何度か繰り返すうち、他の波と重なって増幅することもあるので息を抜けません。3.11のとき、横浜港で「最大波」を記録したのは、第1波が到達してから1時間28分後でした。